

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 一般社団法人 OSPA

代表者名 柳美里

1. 事業名

福島県南相馬の子どもたちと高齢者の心のよりどころ「La MaMa ODAKA」活用事業

2. 事業カテゴリー

3. 事業期間

2022年11月1日 ～ 2023年10月31日 (365日間)

4. 契約金額

5,000,000円

5. 担当者名

柳 丈陽

6. 事業目的

ブックカフェ「フルハウス」と、隣接する劇場「La MaMa ODAKA」を活用し、福島県浜通り地域の高齢者と子どもたちをはじめする地域住民が、演劇に触れ、舞台上で感情を表出させる役者から自分の悲しみを表に出すことを学ぶ機会を持続的に提供する。演劇を通じて被災した地域の住民の悲しみを癒すことで、「心の復興」を後押しする。

7. 事業の成果

フルハウスは、コロナ禍での外出制限が解除されたことで利用客が増えた。本事業で整備が完了し「劇場」として認可を受けた Rain Thertre (※概要書作成段階では「La MaMa ODAKA」の名称であったが、権利の関係で改名) は、12月17日の女優南果歩主演、柳美里演出の朗読劇イベントをはじめ、常磐線舞台芸術祭でも活用された。舞台芸術祭での「JR常磐線乗り列車-マスク-」公演は、震災と原発事故の前後やコロナ禍の緊急事態宣言が解除された後の現在を描いた作品であり、当時高校生だった地域の方にヒアリングをするなど、震災や事故の記憶を集めて、他者と共有することで、記憶の伝承という課題にも取り組んだ。このプログラムを通じ出演者として高校生が関わることにより、その保護者や地域住民に対しても地域の交流推進や居場所づくりにつながった。

8. 事業種別 (コンポーネント) ごとの成果

(1) コンポーネント①

常磐線舞台芸術祭の一環として、7/21~8/12の間に計20回、舞台「JR常磐線乗り列車~マスク~」を上演。地域の内外から延べ467名の観客を動員し、好評を博した。動員数の内訳等詳細は以下のとおりである。

#	イベント日時	チケット	入場者数	内訳		
				一般	学生	常磐線沿線 (地域住民)
1	2023/07/21 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	5	5		
2	2023/07/22 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	8	8		
3	2023/07/23 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	20	17		3
4	2023/07/24 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	5	5		
5	2023/07/25 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	3	2		1
6	2023/07/26 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	7	6		1
7	2023/07/27 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	10	9		1
8	2023/07/28 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	12	12		
9	2023/08/03 17:00	無料 (劇団関係者、フルハウス関係者、地域住民のご招待)	10			10
10	2023/08/04 14:00	無料 (劇団関係者、フルハウス関係者、地域住民のご招待)	20			20
11	2023/08/04 18:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	45	31		1
12	2023/08/05 13:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	50	29		6
13	2023/08/05 18:30	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	45	42		1
14	2023/08/06 19:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	45	35		1
15	2023/08/10 15:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	31	28		1
16	2023/08/10 19:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	20	17		2
17	2023/08/11 15:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	35	29		3
18	2023/08/11 19:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	28	22		4
19	2023/08/12 15:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	35	25		3
20	2023/08/12 19:00	有料 (一般4000円、学生3000円、常磐線沿線3000円)	33	28		4
合計			467	350		32
						85

観客からは「涙が止まらなかった」「観客含め皆の気持ちがひとつになったようだった」といった声が聞かれ、舞台芸術に触れる機会の少なかった当地域の住民にとっては新鮮な経験であったことがうかがえる。また、準備期間中においては、地域の高校生が演者としてこの作品に参加していたことから、高校生を通じた保護者や地域住民との交流もはかることができた。地域の方々にとっても、ブックカフェ、劇場はただ「本を買う場所」「カフェ」「何かの公演を見る場所」であるという認識から「人とひとが繋がる新たなコミュニティ、居場所」へと変わるきっかけとなったのではないかと思う。

当初、住民向けの無料ワークショップも実施する計画であったが、常磐線舞台芸術祭の企画・運営に想定よりも多くのリソースを割くこととなり、ワークショップまでは実施することができなかった。しかし、まずは舞台芸術に触れる機会を創出できたことは大きな成果であり、今後地域で舞台芸術に触れ、自分の感情を表に出す、表現するという事学んでいくための大切な一歩となった。

(2) コンポーネント②

これまで劇場は興行場法に適合した環境となっておらず、その利用には制約が生じ、有効活用できていなかった。そこで、興行場法に適合した環境を整備するべく改修を別事業にて進めると同時に、本事業において固定型の椅子を購入・設置したことにより、無事に興行場法に適合する劇場として新たなスタートを切ることが出来た。その結果、事業期間中には計 20 回の公演が行われ、450 人を超える人々が利用している。劇場の整備が完了したことで今後はさらなる利活用が可能となり、地域住民はもとより地域外からの集客も見込める。地域外からの集客を増やすことは交流人口の増加にも繋がり、震災から 10 年以上が経過しても未だ取り戻せずにいる地域の賑わいや活気が戻るきっかけ作りになったと考えている。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

フルハウスの利用客は着実に増えているが、駅や劇場の周辺を見渡すと、空き地も多く、歩いている人も相変わらず少ない。小高区の統計をみても、本事業を開始した 2022 年 10 月末時点の 2698 世帯 6839 人から、事業完了時の 2023 年 10 月末時点には 2640 世帯(-58 世帯) 6395 世帯 (-444 人) と減少した。人口減少が加速する中で、フルハウスは地域住民や高校生、子どもたちが安心して時間を過ごせる場所として重要性がまっている。劇場の活用も含めて、地域の人たちにより親しんでもらえるような施設運営やプログラムを継続することが期待されている。

本事業においては他団体からの協力を得ながら運営体制の強化を計画していた。しかし 2023 年は経産省や文

化庁、福島県などの補助金を申請して、芸術祭を開いたこともあり、補助金申請の調整や報告、経理処理に追われ、運営体制を整えることも難しかった。補助金事業を続けるためにも運営体制の強化が必要だが、地元で人が集まらない。芸術祭の事務局スタッフは東京を中心に遠方から来てもらったが、交通費などのコストがかかるため、持続性という点で課題が残る。地元で働きたい若者への支援としての役割を担うためにも、地元採用が今後の課題である。

10. 協力体制の構築

本事業の協力体制の構築に当たっては、経済産業省「福島浜通り映像文化プロジェクト」との連携を行った。常磐線舞台芸術祭においては、経済産業省ブースの出展や、株式会社ジェイアール東日本企画との連携による JR 東日本の駅等への広報展開を行うことができた。

地域で活動する NPO 法人との連携では、NPO 法人富岡町 311 を語る会による常磐線舞台芸術祭「Keynote Speech」での発表や、代表理事の青木淑子氏に地域コーディネーターに就任いただくなどの連携を行った。

地域の教育機関との連携として、東日本大震災の記憶がない世代への記憶の伝承に資する事業として、福島県立ふたば未来学園高等学校の生徒に青春五月党「常磐線上り列車—マスク—」に出演頂いた。なお、本事業においては、福島県教育庁との連携として、震災と原発事故以降立ち入りが制限され、休校となっている浪江高校・双葉高校・双葉翔陽高校・富岡高校の 4 校に立ち入り、現地で放置されていた 4 校の制服を（後継の学校である）ふたば未来学園の生徒が着用して演技を行った。本取組では、震災前の登下校の様子を劇中で詳細に再現したことで、生徒たちからも震災前の高校生が分かった、といった感想があった。また、福島県教育庁との連携事業においては、福島県内の県立学校に常磐線舞台芸術祭のポスターを掲示頂いた。

地域の行政機関との連携としては、福島県文化振興課から「令和 5 年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の採択を受け、連携して事業を実施した。

本事業を通じ、NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンにも事業実施に当たって運営サポート他、様々なご協力を頂いた。

11. Civic Force との協働について

常磐線舞台芸術祭の開催を実現には、準備段階から資機材への投資が不可欠であり、資金面でのサポートがなければ達成できなかった。本事業の実施に当たり、事業計画の作成から終了後の事業評価等について、様々なアドバイスをいただき感謝しています。